

短
歌
の
部

最優秀賞

乳房ひとつ癌がんに盗とられし吾あにやさし城崎の湯は昔も今も

兵庫県加古川市 小谷 さよ子

古来から城崎の湯は傷を癒すのに効果があると知られていました。作者は乳癌に冒されこの地を訪れ、深々とした湯に浸ったのです。湯はあくまでも優しく、身も心にも染みわたるようで、救われたような思いになったことでしょう。萎れていた心がまた以前のように活気に満ち、明日に向かって走り出しました。「し」、「も」のリズムがスキップしています。湯からあがって、さあ、頑張ろうね。

優秀賞

やわらかな指の先まで波刻^{きざ}み新たな泉へ下駄の音響^ねく

京都府京都市 光岡諒彦

温かい湯が体の芯まで届いて病が癒えるということを古人もよく知っていました。いくつかの湯をめぐり、さまざまな薬効を思い描きながら歩いて廻るのです。心も軽く。下駄の音色も軽やかに響き渡ります。「指の先」といい、「波刻み」といい、細やかで豊かな湯に体全体が溶け込んでいく様子をよく捉えています。見つめる事、耳を澄ます事がうまく溶け合っている一首です。

想像を膨らましゆく文豪の夢の後先湯の町城崎^{わしやま}

大阪府箕面市 秋吉和紀

城崎は古来から俳諧師や歌人たちが心を寄せた地。近代では志賀直哉、島崎藤村、近くは万城目学や湊かなえなど、あちこちに記念碑もあります。ぜひとも「城崎文芸館」を見学してください。そして心に大きな栄養を与えてください。目の前の光景がきつと立体的で豊かな世界に見えてくることでしょう。違って見えることを実感してみてください。

幼子^{わきなご}の手つなぎ渡った太鼓橋今日は肩並べ語り渡る

兵庫県美方郡 國谷 由喜子

自分と肩を並べるほどに成長した子供。いま以前と同じ太鼓橋を渡っている。あの時は子供の手をつないで転ばないかと気にしていたっけ。私も若かったし元気だった。あれこれと思い出すことは多いが、なによりもこんなに成長してくれた子供に感謝したいし、自分をほめてもみたい。子供と肩を並べながら話ができる幸せを実感することです。

湯上がりに濡髪撫でる春の風大谿川の灯笼灯りて

兵庫県豊岡市 今井 登美子

何となく妖艶な雰囲気、漂う場面を描いています。湯上りの後の散策なのでしょうが、濡髪に春の温かい風が心地よく通り過ぎ、大谿川の兩岸に並ぶ灯笼の明かりが水面に揺れているようです。歌の出来上がる背景はすべて揃っています。上句に髪感触を、下句に視覚を据えて、ともどもにほのぼのとした城崎温泉街を浮き上がらせています。

麦笛の音に浮かぶや懐かしき日々の思い出父の肩車

兵庫県明石市 小田 龍 聖

麦笛は土産物店にも置いてあります。どこから麦笛の音が耳に届きました。その音色で過去の思い出が、一挙にこみ上げてきました。なかでも幼い自分を父が肩に乗せてくれたこと、そのときの喜び、父のぬくもり、自分の高揚した思いなどが噴出したのでしょうか。「懐かしき」と明確に感情を告げ、結句に「父の肩車」とあることで、この一首は見事な完成をみました。共感する人も多いでしょう。

佳 作

赤ちゃんのあんに注ぐ熱き湯と父母の愛情春はすぐそこ

京都府京都市

志賀愛未

集いたる「城崎」の宿に花が咲く六十年ぶりの四つ葉のクローバー

兵庫県朝来市

中安妙子

大谿の川筋行けば懐かしき湯の香求めてそぞろに歩く

兵庫県姫路市

中島保

からころと下駄のひびきのなつかしく今年も来ました城崎の湯に

兵庫県伊丹市

瀬川忠泰

城崎に遊びし証し思い出は文藝館の直哉一冊

兵庫県神戸市

植村治

峠越え見はらし行けば円山の川面を渡る風は床しく

奈良県大和郡山市

水野隆司

女手で三人育てし瘦身の母の双肩いで湯に光る

兵庫県朝来市

高橋久美枝

常宿に手土産提げて顔を出す此処ここは私の城崎の家

兵庫県西宮市

南理恵

秋微雨あきこさめ降りしきる中温泉寺思いがけず出会う空海

大阪府東大阪市

安藤安津美

アرائمをセットし朝の一番湯明星追いて向かう「一の湯」

東京都足立区

佐藤春夫

湯けむりの流るるままに空を見て星空輝く城崎の空

大阪府東大阪市

櫻井優輝

寝たきりの祖母思い出の城崎や七湯巡りて一家団欒

京都府福知山市

山口秀樹

母親の苦勞を癒す温泉に城崎の地の人のぬくもり

京都府福知山市

杉森大介

冬告げる初競りの声響きおり蟹尽くしの夜の味鮮やかに

山口県周南市

野村貞江

卒業旅行青春と惜春せきしゆんにひたる粉雪の夜長し

大阪府池田市

室本匡希

往年の名優たちの行き過ぎて一人たたずむ豊岡劇場

福井県あわら市

笹岡一彦

湯上がりに揺られて上るロープウェイ傷を癒した吾は鴻のとり

京都府京都市

松村豪

コロナ禍で不自由あれど癒やしたい心の雪を溶かす温泉

京都府長岡京市

森下智咲

毎年の出湯の旅もあと何度この幸せに手足を伸ばす

兵庫県伊丹市

瀬川知子

露天湯に散りくるもみぢを掬わむと虫捕る網がおかれてありぬ

大阪府羽曳野市

赤澤皆

三姉妹墓前に^{つな}伝える城崎を月といっしょに入った露天

大阪府羽曳野市

新居とも

山茶花のほぐれ初めたる湯の宿の板前さんのロマンスグレイ

京都府京丹後市

田崎千草

城崎は星が降りますご注意くださいを両手広げて空を見上げる

兵庫県川西市

木内美由紀

大谿の川面に映える青柳五十三年齡を垂るる

兵庫県豊岡市 森田 洋

城崎のプチたび手にし友と行く新たな探検コウノトリ飛ぶ

兵庫県朝来市 竹村 雅子

大雪に諦めないで第三のルート「はまかぜ」で城崎に着く

京都府京都市 小坂 純一郎

湯めぐりで野の花見つけLINEする先行く夫おとこ振り向き笑顔

兵庫県尼崎市 荒川 としみ

ゆったりと城崎七湯つかりたり春の夜空の月冴えわたる

兵庫県川西市 佐保田 全弘

雪雲と息の白さを比べ合う「城の崎にて」の世界で二人

京都府京都市 前原 心

祭すみパラペットへ干す地下足袋じかたびに赤トンボ来て翅を休めり

兵庫県豊岡市

四角澄朗

いにしえに羽を癒せるコウノトリはばたきて今来たれ鴻の湯

山梨県甲府市

佐野一彦

夕暮れに旧友達と浸る温泉ゆの語る想い出る時を知る

兵庫県宝塚市

齊藤裕貴

城崎の柳木の先の太鼓橋浴衣通りて香る湯の香を

埼玉県日高市

安藤元氣

城崎をそぞろ歩けば下駄の音下駄の音また下駄の音あり

兵庫県豊岡市

谷口俊一

玄武岩六角形と強さ生かし川の護岸に役立ちあるとは

山形県鶴岡市

大沼二三枝

霧の海豊岡盆地の子らの列海底深く泳ぎ行くなり

兵庫県美方郡

西村

徹

おりづるを舟に見立てて舌鼓蟹のさしみに謳歌するらん

京都府相楽郡

北谷

匠

外の湯に行きたしと言う夫が逝く山紫陽花の咲く雨の日に

兵庫県豊岡市

山田 まゆみ

雨降れど外湯の灯消えぬ夜友と笑って温もる身体

徳島県鳴門市

長峯 令奈

ひたすらに蟹しゃぶりいる子の皿に足一本を加えてやりぬ

兵庫県豊岡市

藤田 幸美

マスク越し湯気越しだけど見えてるよあなたの笑顔城崎の街

奈良県桜井市

福島 千佳

城崎は昭和の色香残る町来し方に寄り添い行く方の背を押す

熊本県熊本市

河添 由美子

城崎の湧き出るお湯に身をゆだね巡らせるのは昨夜の宴

滋賀県長浜市

松本 夕歌

円山川翔ける白鳥どこまでも飛んでほしいな思い出のせて

北海道札幌市

新井 遼

入 選

慣れぬ下駄ちよつと待つてと手を伸ばしあなたの右手掴んでもいい？

兵庫県加東市

池 袋 咲

赤紐の下駄カラカラと音鳴らし少し大人の振りをしてみる

兵庫県加東市

植 村 心 愛

羽二重の餅のごときの孫の頬こうのとりへの思いをこめて

京都府南丹市

中 井 千津子

きのさきの月影すずし橋渡る下駄の音ばかりカラシコロシと

京都府京都市

羽 賀 隼 平

薄氷張りたる田んぼにじつと立ち鶴一羽餌食を狙う

兵庫県朝来市

前 田 吉 幸

こうのとり城崎温泉玄武洞旅行の思い出親指のママ

兵庫県神戸市

竹田めぐみ

湯の里にけむりたなびく山間の朝に夕なにほぐれゆくなり

京都府宇治市

京極直子

女湯にずらりとつかる細い足その様まるで鴻の鳥かな

京都府京都市

西條柚

夏雨を眺めつ入る鴻の湯で長き旅路の思いをつづる

愛知県北名古屋市

森利枝

湯けむりにうつる君の横顔をかの文豪はどうかくだらうか

京都府宇治市

公文代一希

大学生活人生最後の春休み城崎温泉大満足

大阪府東大阪市

村松功希

細雪湯煙にとけしとしとせせらぎ流る湯里の小川

兵庫県宝塚市

池内穂高

梅の咲く川べり歩み外湯へと下駄の音連れ会話の弾む

兵庫県明石市

小田和子

うぐいすのまだ未熟なる鳴き声に口笛を添え楽し山道

兵庫県明石市

小田慶喜

亡き義父ちちに導かれてや温泉寺歩みし方を照らす人生

兵庫県加古川市

増田仁史

紅葉散る湯舟に浸りて語り合う「どこから来たの」と国際交流

大阪府大阪市

山崎哲哉

湯を満たす音にききいる露天風呂みな厳かに黙浴守る

愛知県新城市

原田裕美

城崎の宿と外湯を一人旅次は家族で来たいと思う

奈良県橿原市

大羽 博光

湯けむりとカニの匂いの城崎に姉妹で旅し足湯につかる

大阪府河内長野市

峯 加津子

円満の秘訣は結婚記念日に城崎で君とほっこりすること

大阪府大阪市

日野 江美

文学と桜紅葉の湯の町へ別れを告げる特急の声

兵庫県尼崎市

大沼 遊山

宿までに氷菓を溶かす湯上がりはしだれ柳と星空添えて

京都府宇治市

池本 昌和

師走の夜温泉駅で孫を待ち浸る外湯に安堵する我

兵庫県豊岡市

畑中 照久

降る雪が昇る湯煙に紛うかな足湯に温む朝の静けさ

大阪府吹田市

萬木 毬乃

歴史ある城崎温泉今もなほ愛される理由わけ今日知った

大阪府堺市

中 辻 あぐり

あったかい温泉めぐって一休みポカポカ温泉おいしい食べ物

大阪府豊中市

足 立 結 咲

誰そ彼月も隠るる湯けむりに後る私の未来までゆれる

兵庫県神戸市

鈴 木 菜 月

見つめあいほほを紅らむ君の顔もみじの浮かぶ城崎の湯よ

神奈川県横浜市

岡 崎 貴 樹

カランコロン歩く音色を聞きながら向かう温泉カニ歩きカニ

奈良県北葛城郡

大 西 淳 也

雪どけの街並み歩く城崎で雨がやむまで足湯ポカポカ

大阪府大阪狭山市

森山実々

城崎で浴衣着る孫照れながら一八〇センチそれでも足りず

長崎県長崎市

嶋田千代子

鈍色の空の城崎に柳揺れ四人姉妹の終活旅行

大阪府交野市

堀井眞知子

灯籠も繫いだ指のぬくもりも湯けむりが如く消えるなど願う

京都府京都市

秋田慧一郎

履き慣れぬ下駄をカラコロ城崎の雨やふるふる宿までの帰路

大阪府大阪市

一ノ瀬円

教え子のため教科書持ちて来たれども開くを忘る城の崎の湯

大阪府堺市

尾田匠

知らん人と肩ならべてあったまろうや明日は別の方向に立つとも

東京都三鷹市

関山実

ひぐらしの鳴く時のころ夕暮れに様々な湯をめぐる楽しさ

滋賀県大津市

村井悠人

初盆の雨のにおいをふくませて北柳通りの灯りやさしく

神奈川県横浜市

荒木希美

浴衣着てカランコロンとげたの音7つのお湯と夏の思い出

愛知県名古屋市

佐野花琳

頬冷ます宵の薫風木々の声心あたたむ城崎の宿

愛知県名古屋市

村居凌太

振られ行く思いの儘に城崎へ秋の昼間に苦を洗い流す

三重県四日市市

鈴木康平

雨にぬれめぐり歩くは七つの湯心身ともに湯で温まる

大阪府堺市

小谷知樹

かに売りの今やなつかし訛りある声を聞きつつ外湯をめぐる

兵庫県神戸市

藤岡博

いつもとは違う姿で練り歩く浴衣ヒラヒラ下駄カタカタ

兵庫県明石市

森本夢歌

還曆をつきぬけてついに古希祝う秋の城崎感無量

大阪府泉大津市

河本和子

城崎の文豪たちに思いはせ御湯おゆにのぼせた顔松葉蟹

大阪府大阪市

永田一及

里の宿に一夜泊りて想うこと海山の幸行き交う人情又触れたしと

兵庫県赤穂市

中田守正

カラカラと木屋町通りになる下駄と笑い声さえあの日のままよ

大阪府大阪市 執行 瑞穂

告白を受けると決めた行き先は父の自慢の温泉と日本海

大阪府吹田市 市場 さと枝

雪中で屋根から落つるをながめては浮かぶ父の顔城崎にて

大阪府大阪市 八野 孟真